

2013(仏暦2556)年2月3月合併号 (第84号)

# 万行寺報

Mangyoji Jiho

発行  
浄土真宗本願寺派  
万行寺 山崎信充  
〒385-0003  
長野県佐久市下平尾461-1  
電話 0267-67-2460



## ■住職法話

親鸞さまに習う

## ■仏事のイロハ

お経を上げるのは僧侶の役目？

## ■本願寺の本

浄土真宗辞典

## ■編集後記

## Photo

今年は、東京の桜の開花が早すぎて、佐久は、やっと梅が開花したところです。個人的には、可憐な梅の花<sup>かれん</sup>ほうが私は好きです。

# 住職 法話

## 親鸞さまに習う

以前、法話をしない浄土真宗の住職の話題を取り上げたことがありました。それは、

仏事の席で、他の浄土真宗のお寺に所属するご門徒に「私

の寺の住職はお参りだけで終わっていて一度も法話を聞いたことがありませんでした。

法話を聞かせていただき感動致しました。」と言われたというものでした。それが先日にも同じような方がいて、割と法話をしない住職が多いことに驚いています。

浄土真宗は、法話を聴聞することを特に大切にしています。浄土真宗の法話は、阿弥陀如来の救いを誉め讃える「仏徳讃嘆」、そして、自ら

信じ教えを深く味わい人にお伝えし信ぜしむ「自信教人信」であると言われます。つまり法話は大切な伝道活動なのです。

「話し下手だから」とか「時間が無いから」とか理由はさておいて、なぜ私は法話をするの。簡潔にお答えすると、親鸞さまもしてきたからです。さかのぼればお釈迦さまもしてきたからです。

また、話しは変わって、仏事をご縁に様々な質問を受けます。中でも、法名の質問が一番多く、なぜ「釈〇〇」と短いのかということ。字数にこだわる戒名の慣わしが広まりすぎているからでしょ

う。

浄土真宗の法名は、お釈迦さまの「釈」の一字をいただき生前に仏弟子としての名の下として授かり、そのまま皆等しく仏さまとらせていただくものです。戒名は、亡くなってからいただくもので、字数や使われる字などにより位が付きまします。このようにみても法名と戒名は全く違うものなのです。

しかし、祖父母は長い法名だと指摘をされることがあります。これは、先の大戦を機にして、浄土真宗も戒名のよりに字数にこだわる時代を経たきました。それを反省するとともに法名の本来化を目指

しているところです。

なぜ浄土真宗の法名は「釈〇〇」なのか。それもやはり親鸞さまがそうしたからです。自らを「愚禿積の親鸞」と名のられ、ご往生されたからです。(愚禿は僧が自らをへりくだった言い方)

私が法話をするのも、法名を「釈〇〇」とすることも、全て親鸞さまがそうされたから、または親鸞さまならこうされたであろうということが前提になっています。そうすると自ずと答えが出てきます。お寺や住職の都合で、仏事が左右されないことを願いたいものです。



# 仏事のイロハ

## お経を上げるのは僧侶の役目？

月忌参りなどで門徒さんの家を訪れてお勤めする時、しばしば寂しい思いをすることがあります。それは、せっかくお参りしているにもかかわらず、家の人が誰もそばにいないで、一人で勤行している時です。

家の人は、と言うと、別の部屋で何やら用事をしていたり、お勤めが終わってから出すお茶の用意をしていたりといった調子です。命日や速夜(命日の前日)にお勤めするのは、亡き人を偲びつつ、それをご縁に仏法を聞き味わうため、"私"を抜きにしてはあり得ません。僧侶がお参りさせていた

だくのも、そうした家族の方のために仏縁を結んでいただくためであって、けっして"故人にお経を上げるため"ではありません。

ですから、お茶の心配をしていただくことはありがたいのですが、それよりも、一緒に座って、お勤めに加わっていただきたいのです。

さらに、僧侶がいなくても、日ごろからお経に親しみ、お勤めができるようになって下さればと思います。お経は確かに難しい漢字が多く、意味を理解するのは容易ではないでしょうが、繰り返し上げていると、自然にスラスラ言えるようになり、経文の仏教用語にも興味がわいてくるものです。

そこで、日常の勤行と、その作法について述べてみます

### ＜勤行の作法＞



①合掌礼拝する



②聖典をいいただき開ける



③おりんを打つ

勤行の後③②①の順で行う

よう。ぜひ、お勤めできるようなっていただきたいのは「正信偈・六首引」です。ふだんのお勤めでは「草譜」という節で上げ、ご命日などの法要では「行譜」で上げるのが一般的です。「正信偈」は、蓮如上人の頃(十五世紀)から、先祖の方がたが読み親しんでこられたお経(聖典)であり、真宗門徒の必須のお経と言えましょう。

このほか、時に応じて「説阿弥陀経」や「讚仏偈」「重誓偈」「十二礼」など、『浄土真宗聖典』や『門徒勤行集』に載っているお経も上げて下さい。ただ、「般若心経」やご詠歌はお勤めしません。それは、浄土真宗の勤行が、仏徳讃嘆であり、阿弥陀如来のご本願のおかげで救われていくことを慶んでお勤めするからです。自力修行を前提とした「般若心経」などは、その点、そぐわないわけです。勤行の作法は、①念珠を両手にかけて、合掌礼拝する。②経卓(机)やひぎに置いてある聖典を両手でとっておしただき、開ける。③右手でバチを持ち、リンを二回打つ。④勤行中は聖典を胸の前に両手で持つ(経卓があれば、そ

ここに置く)。⑤お勤めの最後は、通常リンを三回打つ（指示されてある）。⑥聖典を閉じて両手でお願いいただき、元の場所に置く。⑦合掌礼拝する―以上の要領です。

なお、大切な聖典ですので、畳や床に直接置くことは避けましょう。また、リンは勤行以外の時は鳴らさないようにしましょう。

### ポイント

- お勤めは一緒に上げよう。
- 「正信偈」は門徒必須のお経。
- 「般若心経」は上げない。
- リンは勤行以外に使わない。

「仏事のイロハ」末本弘然著、本願寺出版社刊より」



## ～本願寺の本～

### 浄土真宗辞典

浄土真宗本願寺派総合研究所 著  
本願寺出版社 刊 定価:3,675円



浄土真宗の＜教義＞＜歴史＞＜儀礼＞がわかる  
待望の辞典。

浄土真宗に関係する調べたい言葉がすぐに見つかる、初学者必携の便利な総合辞典。

『浄土真宗聖典(註釈版)』『同 七祖篇(註釈版)』の関連頁を明示し、仏教・浄土真宗の教義用語など約3600語、人名約1000語、書名約730語を収録する。(本願寺出版社HPより)

※より専門的に浄土真宗の言葉を知りたい方におすすめです。私も一冊と思っています。

### 編集後記

先月と合併号で発行となりました。法務や子育てに追われ…、というのはい言い訳になります。申し訳ございません。◆この冬は、親子三人で、何度も風邪に見舞われた時季を過ごしました。今は、子供が大変でグズグズしています。子供にとっては免疫を作るために、必要ことではありますが、暖かくなって少し落ち着いてほしいです。◆「仏事のイロハ」が終わった後の連載を思案中です。正信偈などお経の意味をおつて連載出来たらと考えています。お楽しみに。

